

## 構造デザイン工学研究室

修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

構造デザイン工学研究室は、松本高志教授、古川陽准教授、佐倉亮助教、近藤健太技術職員、滝本雅子秘書の5名の教職員で運営しています。学生は、博士後期課程2名、修士課程9名、学士課程9名が在籍しています。そのうち、留学生は4名で、国内外から個性豊かな学生が集まっています。

本研究室では、橋梁学講座からの伝統である橋梁および鋼構造物をはじめとする社会基盤構造物についての研究に取り組んでいます。最近では、UHPFRCやCFRPなど先進複合材料の開発と橋梁構造物への適用、AIや画像処理などの適用による新技術の開発に取り組んでいます。また、非破壊評価のための波動解析手法の開発や、部材内部に存在する欠陥・層間剥離の推定、弾性波トモグラフィの改良に関する研究にも取り組んでいます。加えて、鋼構造物や鋼製橋梁の高性能化を目指して、すべり・座屈・塑性変形などの非線形耐荷挙動の解明、腐食や地震を受けた既設鋼部材の残存耐荷力評価などにも取り組んでいます。このように、本研究室は各教員の専門知識を活かし、多種多様な研究を展開しています。

昨年度は、研究ミーティングや学会発表などの研究活動に加え、バーベキューや忘年会、ソフトボール大会など、イベントの開催や参加を精力的に行いました。さらに、2026年3月には兵庫県への見学旅行も実施しました。本研究室の活動内容や近況はHP (<https://bridge.eng.hokudai.ac.jp/>) や Facebook (<https://www.facebook.com/hokudaibrige>) にて紹介していますので、こちらも是非ご覧ください。

研究室の教職員・学生一同、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。お近くにお越しの際には是非研究室にお立ち寄りください。イベントの参加・開催も大歓迎ですので、いつでも本研究室の教職員にご相談ください。

